

『防災地元学』が日本地理教育学会出版文化賞を受賞しました（2026/8/21）

テーマ：防災教育、地理教育、ハザードマップ、地域知

防災教育実践学分野の、小田隆史特任准教授（客員）（本務先：東京大学大学院情報学環准教授）が編著者を務めた『防災地元学―地誌で読み解く災害の記憶と知恵』（大修館書店）が、2026 年度日本地理教育学会出版文化賞を受賞しました。

本書は、地形や土地利用、地名、災害伝承、住民の経験や語りなど、地域に蓄積されてきた「地域知」を掘り起こし、現代の防災に生かす「防災地元学」の視点と実践を示したものです。地域を実際に歩くことに加え、ハザードマップ、Web-GIS、古地図、災害伝承碑、災害遺構などを活用し、地域を多面的に読み解く方法を紹介しています。

本書には、防災教育実践学分野から 3 名が執筆しています。小田特任准教授は、防災地元学の考え方と地域知を探る方法、佐藤健教授は、地名に残された災害の痕跡や先人の知恵、仙台市長町・富沢地区での「ぼうさいまち歩き」の実践、桜井愛子クロスアポイントメント教授は、神戸、米国ハワイ州、インドネシア・シムル島を事例とした多様な災害伝承とその持続可能性について、それぞれ執筆しています。

受賞理由では、地域に根ざす「地域知」を防災教育に生かす視点を示し、地誌学的な見方・考え方を地域理解へとつなげている点が評価されました。また、災害を自然地理的側面だけでなく、土地利用の変遷や地域社会の特性といった人文地理的側面とあわせて捉え、地図や Web-GIS、災害伝承碑などを活用した具体的な防災教育の方法を示したことも評価されています。



受賞名：2026 年度 日本地理教育学会出版文化賞

受賞日：2026 年 8 月 21 日

受賞書籍：小田隆史編著『防災地元学―地誌で読み解く災害の記憶と知恵』（大修館書店）

共同執筆者：後藤健介、黒木貴一、佐藤健、桜井愛子、田部俊充

2026 年 8 月 21 日に開催された日本地理教育学会総会後の授与式において、小田特任准教授が執筆者を代表して賞状を受領しました。



授与式の様子

文責：佐藤 健、桜井愛子、小田隆史（防災教育実践学分野）